能美市 中ノ江（なかのごう）遺跡　現地説明会資料

令 和 ６ 年 ９ 月 ７ 日（土）
（公財）石川県埋蔵文化財センター

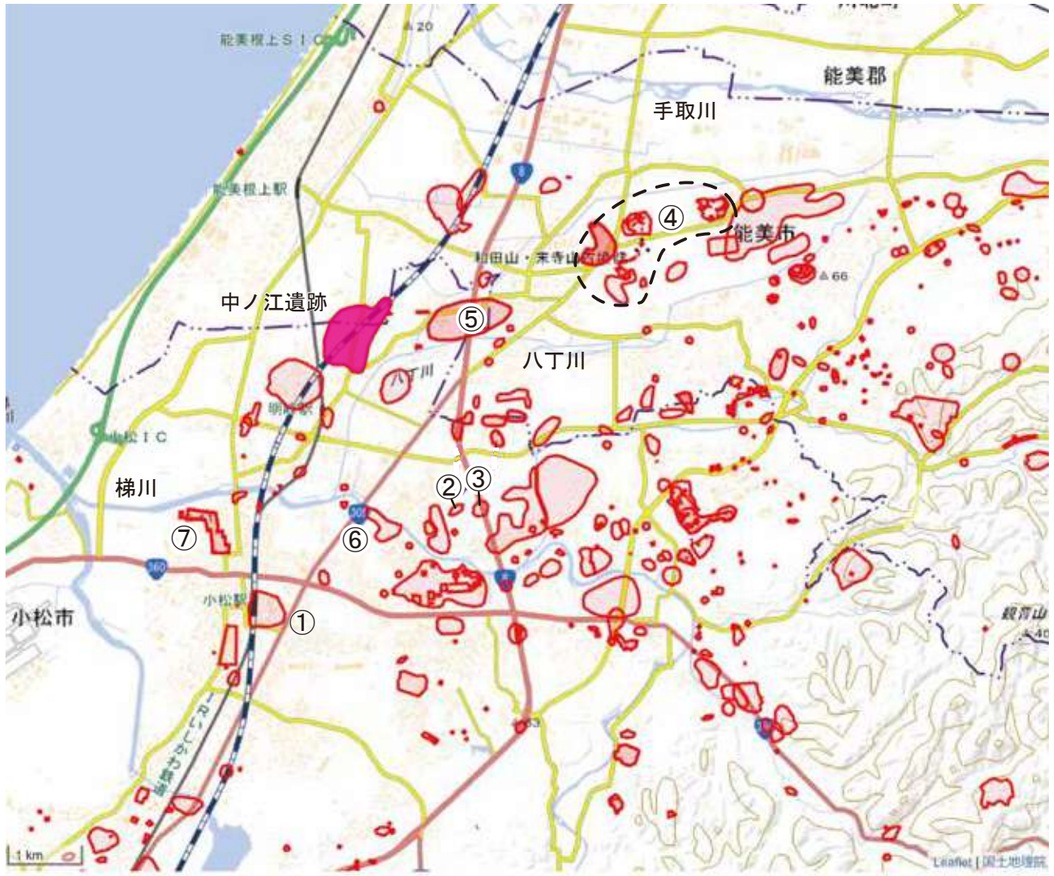
石川県埋蔵文化財センター
―歴史と出会える場所―

調 査 地　能美市中ノ江町地内
調査原因　地方道改築事業　一般県道粟生小松線
委 託 者　石川県土木部 道路建設課
調査主体　石川県教育委員会（調査担当：公益財団法人石川県埋蔵文化財センター）
調査期間　令和６年５月 20 日～令和６年 12 月（予定）
調査面積　約 3,600 ㎡
調査概要

中ノ江遺跡は梯川（かけはし）の支流である八丁川（はっちょう）右岸に位置し、能美市中ノ江町と小松市蛭川（ひるがわ）町にまたがり広がる、弥生時代から中世の遺跡です。北陸新幹線の建設に先立つ発掘調査では、掘立柱建物や井戸などで構成された、主に弥生時代後期から古墳時代の集落が確認されています。集落の北西側には、弥生時代後期～終末期の二重の溝も見つかっています。

今回の調査でも、弥生時代後期から古墳時代前期頃の掘立柱建物（ほったてばしらたてもの）や平地式建物（へいちしきたてもの）、土坑（どこう）、溝などが数多くみつかりました。掘立柱建物の柱穴（ちゅうけつ）には、柱の根元が残っているものも多くみられました。平地式建物の柱穴は確認できていませんが、周りに巡らされた溝の配置から、平地式建物が複数回にわたって建て替えられていることが判りました。このほか、大量の土器が捨てられた土坑からは、土器に混じって石製装飾品の石材が出土しました。集落の中で玉作りが行われていたと考えられます。

今後も調査を進めていきます。調査により、当時の人々の暮らしぶりを知る手がかりがさらに得られることが期待されます。



中ノ江遺跡と周辺の主な遺跡　（地理院地図を改変）

西暦	時代	日本の動き	石川県の動き	主な周辺遺跡
	旧石器		丘陵上で石器を使った生活が始まる	
10000頃	縄文	土器の出現 貝塚の形成	定住的な生活のはじまり 大型竪穴住居が出現する 巨大木柱列がつくられる	
300頃	弥生	農耕文化が伝わる 金属器の使用 邪馬台国の成立	方形周溝墓・高地性集落の出現 低地で平地式住居がつくられる	八日市地方遺跡① 一針Ｂ遺跡② 千代・能美遺跡③ 能美古墳群④
B.C / A.D				中ノ江遺跡
250頃	古墳	大型古墳がつくられる 須恵器の生産がはじまる	玉造集落の形成 前方後円墳がつくられる 横穴式石室がつくられる	
710	奈良	平城京へ遷都	能登国の設置(718) 大伴家持の能登巡行(748)	
794	平安	平安京へ遷都	加賀国の設置(823) 加賀国・能登に国分寺が設置される 加賀郡勝示札がたてられる(849) 山岳信仰が盛んとなる 中世窯業への陶器生産始まる	高堂遺跡⑤
1192	鎌倉	鎌倉幕府の成立	白山・石動山などの山岳信仰盛んとなる 港町を中心として集落が発達する	白江梯川遺跡⑥
1338	室町	室町幕府の成立	山城が築かれる 加賀一向一揆がおこる	
1573	安土桃山	室町幕府の滅亡		
1603	江戸	江戸幕府の成立	前田利家の金沢入城 山中町九谷で陶器を焼き始める	小松城跡⑦
1868	明治 大正 昭和 平成	明治維新 第二次世界大戦	石川県の誕生(1872)	

中ノ江遺跡と周辺の遺跡年表

調査区遠景（北東から）

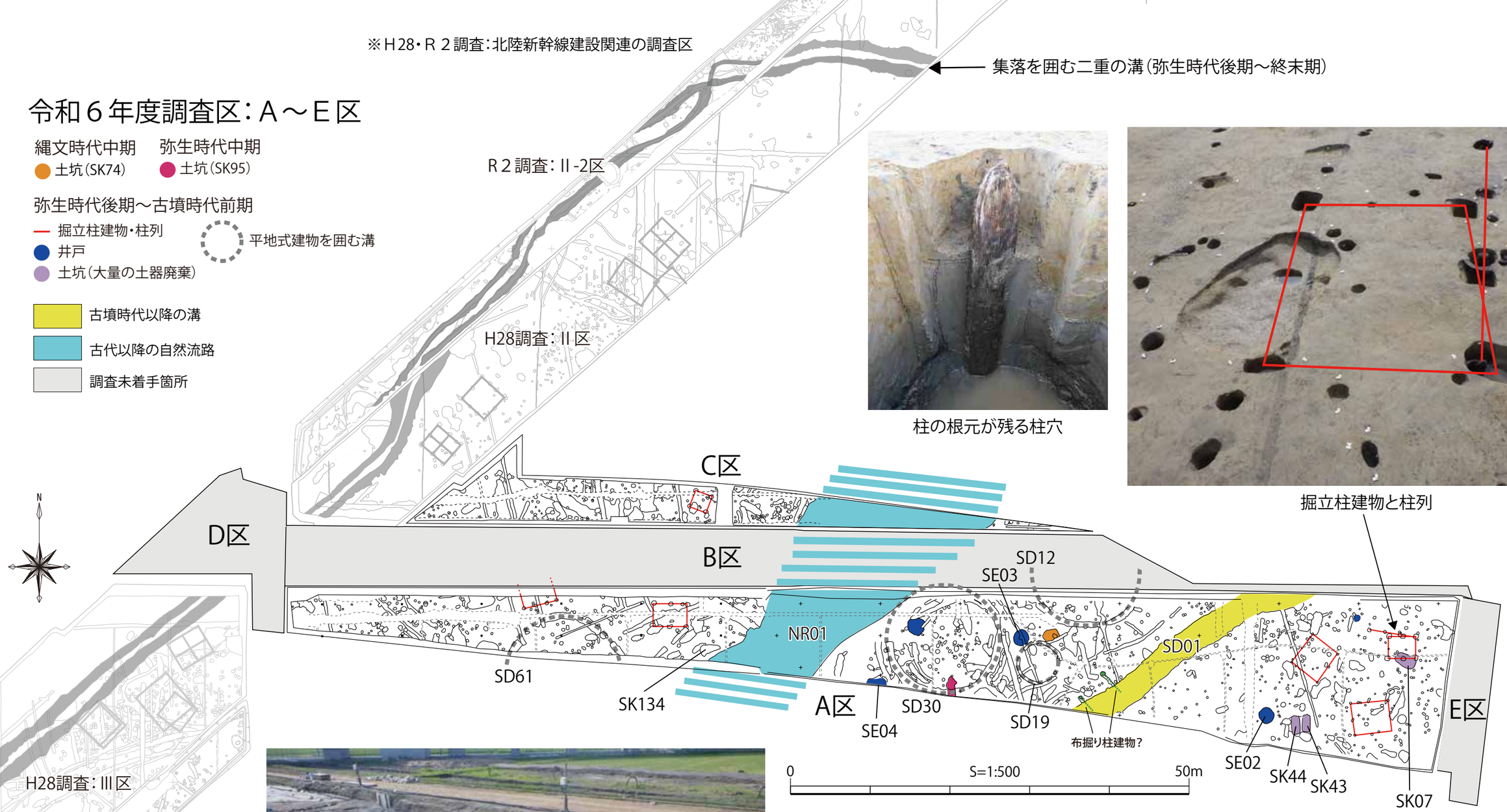
令和６年度調査区：Ａ～Ｅ区

縄文時代中期
- 土坑（SK74）

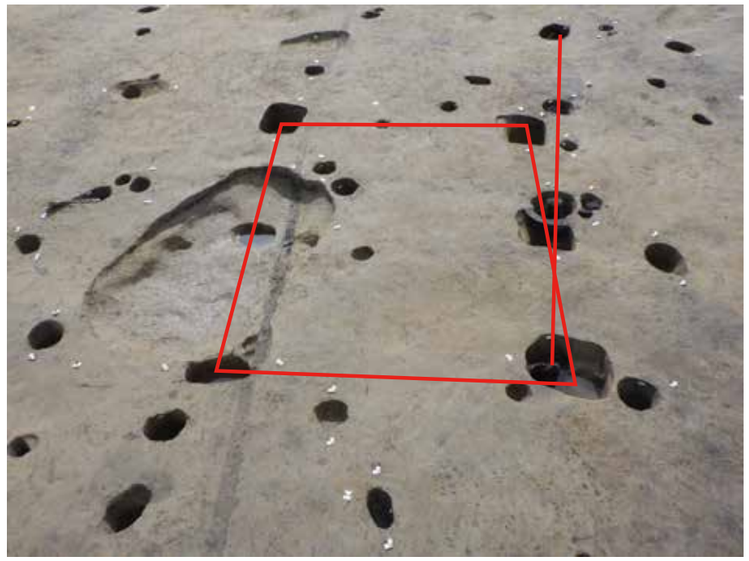
弥生時代中期
- 土坑（SK95）

弥生時代後期～古墳時代前期
- 掘立柱建物・柱列
- 井戸
- 土坑（大量の土器廃棄）
- 平地式建物を囲む溝

- 古墳時代以降の溝
- 古代以降の自然流路
- 調査未着手箇所



柱の根元が残る柱穴


掘立柱建物と柱列

平地式建物と周溝(SD30)

古墳時代前期の井戸（SE02）

弥生時代後期の土坑（SK43・44）